

登録コード:MH159300 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産診断・技術学Ⅰ（分娩期・分娩介助）【20M～24M】 Diagnostics and Technics in MidwiferyⅠ		
担当教員	中込 さと子 他 芳賀 亜紀子・徳武 千足		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 不定期 集中・不定期		
単位数、講義室	3単位	保健学科221講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	妊産褥婦と胎児・新生児の生命の尊厳を護る専門職としての知識と感性を獲得する。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	妊産褥婦と新生児に生じる現象を分析し、健康問題を解決する方法を理解する。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	助産師としての倫理観と責任感に基づき意思決定し、行動する能力を獲得する。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	周産期医療システム、地域母子保健システムに関連する多職種との協働を理解する。
	MH23カリ・保健・看護		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	妊娠・分娩・産褥期にある人と胎児と新生児のヘルスマネジメントに関する基礎的・専門的な知識・技術を習得し、予防、標準医療ケア、緊急対応時の判断とケア技術を適用する基礎的力を習得する。
	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	妊娠・分娩・産褥期にある人と胎児と新生児のヘルスマネジメントに関する基礎的・専門的な知識・技術を個人や集団、地域社会に対して適用する際、科学的・倫理的・道徳的・創造的に思考し取り組む基礎的能力を獲得する。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、助産師資格取得の必須科目として開講します。産婦に焦点をあて、助産過程の展開に必要な診断の技法を理解するとともに、助産の実践に必要な基本的技術を習得することを目的とします。 本授業は、基礎看護学関連科目、臨床看護学関連科目に続く科目である。また、ヒューマンセクシュアリティ、助産学概論、親子関係論を連携した科目である。さらに、その後に助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）の基盤となる科目である。 なお本授業は、担当教員の周産期医療における助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1～2回(6月16日)分娩の3要素と正常分娩経過 第3～4回(6月23日)分娩進行・胎児の状態（助産学実習カンファレンス参加） 第5～6回(1月 4日)産婦の状態・産婦・家族のニーズ 第7～8回(1月 4日)産婦・胎児のリスク判別の実際 分娩第1期 第9～10回(1月 8日)産婦・胎児のリスク判別の実際 分娩第2期・3期・4期 第11～12回(1月 8日)産婦・胎児のアセスメントのための情報整理 第13～16回(1月15日)助産計画の立て方・標準看護計画 第17～20回(1月18日)事例課題の助産計画（初期計画）を立案する。 第21～24回(1月22日)分娩介助演習（デモンストレーション） 第25回(2月 1日)論述試験 授業アンケート 第25～30回(2月初旬)ECE早期臨床体験 分娩開始時の助産診断とケアプラン作成 第29～30回(2月下旬)グループ発表		
授業の進め方	本コースは、講義、ケーススタディ、デモンストレーション、早期臨床体験を通して学びます。 参加にあたっては、助産学・産科学のリーディング課題は必ず読み、母性看護学で学修したことをより深めるための予習をすること。 講義は、学生間と教員とのディスカッションを通して進めていきます。ケースのリスク判別、アセスメントを学習するためにケーススタディを通して学修します。 分娩介助技術については、教師のデモンストレーションを行います。 ケアプランについては以下のテーマでグループワークを行います。 1) 分娩進行を予測する視点、情報収集と解釈、方針を決定するまで。初産婦と経産婦の場合、それぞれ関連要因を考える。 2) 分娩第1期（潜伏期、活動期）、分娩第2期（娩出期）の産婦緩和法の選択。分娩進行状態と、産婦の安楽、胎児の安全性から考える。 3) 分娩第1期（潜伏期、活動期）、分娩第2期（娩出期）の産婦の体位の選択。分娩進行状態と、産婦の安楽、胎児の安全性から考える。 4) 分娩経過中の産婦の生理的・心理的ニーズへの対応。分娩進行状態と、産婦と胎児のリスクマネジメントを含めて考える。		

授業の進め方	5) 分娩経過における胎児心拍モニタリングとNRFSが疑われた産婦への対応。分娩前、分娩第1期、分娩第2期のリスク判別ごとに看護計画を立案する。 6) 陣痛発来前から弛緩出血が予測される妊婦のリスクマネジメント。分娩前、分娩1,2期、3期、4期の管理を含む看護計画を立案する。 7) 帝王切開の適応、帝王切開決定まで。モニタリング、決定、説明と同意、術前検査、術前処置、新生児管理、術前と後の母体管理、術後の看護。
テキスト、教材、参考書	必携書：助産学講座第7巻，助産診断・技術学Ⅱ〔2〕 分娩期・産褥期,医学書院、2021（第6版）。 ：母性看護概論・方法論・健康論で活用したテキスト
成績評価の方法	成績評価は、論述試験（70%）とグループ発表（30%）で行います。 60点未満は不可とします。
成績評価の基準	期末試験の判定評価は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可とします。 これらの採点基準は、行動目標に関連した設問に対する記述式回答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で示した範囲における最低限の回答内容であれば「水準にある(可)」、やや詳細な回答内容であれば「やや上にある(良)」，十分に詳細な回答内容であれば「かなり上にある(優)」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な回答内容であれば「卓越している(秀)」とします。
事前事後学習の内容	2単位30コマ 本授業の単位習得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間（2時間×30回）+ 自己学習時間30時間（1時間×30回）＝90時間 講義ごとの課題に取り組むこと。 1. 産婦の健康状態に関するリスク判別」の学習課題 産婦の健康診査（テキスト 3章B-1） ハイリスク分娩、身体的ハイリスク因子のアセスメント、心理社会的ハイリスク因子のアセスメント（テキスト 7章A-1～3） 合併症を持つ妊産婦のアセスメントと援助（テキスト 7章B-2、3） 母体の健康状態のアセスメント（テキスト 3章B-6） 2. 胎児の健康状態に関するリスク判別の学習課題 胎児の健康状態のアセスメント（テキスト 3章B-4） 分娩の3要素の異常 胎児の異常、胎児付属物の異常（テキスト 6章A-3～4） 3. 分娩進行に関するリスク判別の学習課題 分娩開始時のアセスメント（テキスト 3章B-2、3） 分娩の3要素の異常 産道の異常、娩出力の異常、胎児に起因する難産、遷延分娩（テキスト 6章A-1～6） 分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症（テキスト 6章B-1～4） ハイリスク産婦への支援 分娩経過の異常への対応（テキスト 7章B-1） 4. 産婦の心理／これまでのリスク判別のまとめの学習課題 産婦の心理（テキスト 2章 A, B） 5. 出生直後の新生児の健康診査の学習課題 出生直後の新生児のケア（テキスト 4章 E） その他母性看護学講義の新生児に関する学習内容を整理していることを期待します。 6. 産婦のニーズへの対応の学習課題 産婦の支援（テキスト 5章）
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	講義中込のメールは以下のとおりです。（snakagomi@shinshu-u.ac.jp） オフィスアワーは曜日を固定していません。メールでアポイントの連絡をください。個別に日時を合わせます。研究室は保健学科棟中校舎3階にあります。